



笑いと寿司の ツアーオンライン開催

皆さん、すごいツアーガ実現しそうです。私は「おおいた観光大使」という辞令を頂いている事は前にも書きました。大した仕事をしているとは思つていませんが、もしこれが実現出来たら少しはお役に立つてると自負出来ると思います。それは来年1月19日、20日のイベントで、「佐伯市へ来ませんか?笑いと寿司と市場を目指して!」…というツアーニの募集です。県南落語組合の寄席を楽しんで頂き、佐伯で寿司を食べてもらい一泊します。そして次の日に豊後水道の漁場で有名な米水津の「いざんせ市」を見学し、買い物をして頂くと言う「ースです。基本的に佐伯集合現地解散です。「笑い」が観光資源になるかどうかわかりませんが、佐伯市観光協会と打合せをしながら話を進めている所です。もしこのツアーガ佐伯市の為になつていけるとすれば、恒例化して行きたいと思っています。県南落語組合という団体が観光資源となるか試される会であるだけに、是非とも頑張りたいと思います。今の所申し込みは私の事務所で受け付けます。どうぞ皆さんも私の生まれ育つた町、佐伯市に来て新鮮な魚を食べて買って素人の笑い喇叭で楽しい一日を過ごしてみませんか?



全国版CD第2弾が 1500枚突破

友人の会3300人の会
現在360名突破

第 4 号
平成24年11月1日
発行:矢野大和事務所
発行責任者:矢野大和



サンフラワー秘話



フェリー船内

フェリー船内

7月号で予告していたダイヤモンドフェリーの弾丸ツアーに、8月31日～9月2日にかけて行つて参りました。テレビコマーシャルでもやっている大人気のツアーです。私の場合は単なるツアーではなく、イベント会社の企画で船の中で一席やるのです。これは県南落語組合の事務局長の三浦氏が私に持つてきてくれた話で、彼自身何度か経験されていると言う事でした。一応私も知つておきたいと思って参加しました。行きは大分港を夜出発し、朝神戸港着。帰りは大阪南港を夜出発し朝別府港に到着するコースです。二晩に渡り違う船でそれぞれ一席づつ落語をするというイベントです。高座作りも人集めも自分でやり、20～40名のお客さんの前で落語をやるのですが、学生時代落研で同じようにしたことを思い出しました。それはそれで楽しい出来事でした。行きは20名、帰りは40名のお客さん、中には「矢野大和」と知つて聞いてた方も居て恐縮でした。県南落語組合メンバーで武者修行をするのにも勉強になりました。車1台、人4人まで無料になるそうですのでそれだけで得した気分です。食事も無料でハイキング形式のもののがつきました。私は大阪での自由時間の間、久しぶりに吉本新喜劇を観にいき、充実した時間を過ごすことができました。しかしそくこんな企画を思いつくものですね。

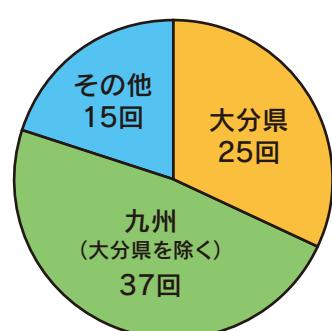
久しぶりの東北

7、8、9月で思い出の口演の場所はやはり東北の3日間だと思います。ただその東北地方へ行くまでの前後のスケジュールが大変で、多忙を極めました。日程は表のようになつていて色のついた部分が口演です。今回の東北は新潟（東北ではありませんが）、山形への旅でした。新潟県のJA十日町市、山形県の庄内教育事務所とお寿司屋さん。新潟や山形の人には大分弁が通じるのか少し不安でしたが、これがバカ受け。主催の方はもちろん、お客様とともに仲良くなり、又呼んで頂けるとの事。とても楽しいやりがいのあるツアーでした。特に山形県庄内のお寿司屋さんで

		口演 15:15～16:30	島原九州ホテル泊	
6日				
7日	長崎大村空港発 10:40	羽田空港着 12:05	打ち合わせ 14:00	打ち合わせ 夕方
8日	池袋発 9:59	十日町着 12:12	口演 15:00～16:30	十日町発 17:32
9日	長崎大村空港発 10:40		口演 13:30～15:00	舞鶴発 23:08
10日	仙台経由 10:00	東京 羽田 15:37	羽田空港 18:40	福岡空港 20:00
11日	車	口演 伊万里 10:00～11:30	車	福岡空港 20:45
12日	口演 宇佐市 9:30～11:00	車	口演 佐伯上浦 19:30～21:00	島橋サンホテル合流 21:35
13日	口演 講師 10:00～11:15	JR	口演 久留米 15:00～16:30	大分泊
			舞鶴会 18:00～	博多泊

ある川上さんは、以前宮崎県で行われた全国寿司サミットの中で私の口演を聞き、CDを買つてくれた方です。また御縁を頂き感謝、感謝です。

口演年間回数



口演数 平成24年7月から9月

今年1月から6月まで200回口演しているようです。今回7、8、9月で77回の口演がありましたから、計279回の口演回数です。今年は400回を超えないような気がしてきました。今まで年間4000回というところで讲述了。口演回数が大変で、多忙を極めました。日程は表のようになつていて色のついた部分が口演です。今回の東北は新潟（東北ではありませんが）、山形への旅でした。新潟県のJA十日町市、山形県の庄内教育事務所とお寿司屋さん。私は大阪での自由時間の間、久しぶりに吉本新喜劇を観にいき、充実した時間を過ごすことができました。しかしそくこんな企画を思いつくものですね。

ある川上さんは、以前宮崎県で行われた全国寿司サミットの中で私の口演を聞き、CDを買つてくれた方です。また御縁を頂き感謝、感謝です。

大和初めて白馬に乗る



大和初めて白馬に乗る

嘶方教室

会の終了後会員全員による大忘年会を計画していますので、こちらの方も盛り上がりが期待されます。

大変ありがたいことに嘶方教室生も第3期受講生が卒業しました。第4期生も11月から来年3月までの10回がスタートします。今回も8名です。何と募集3日目で定員になってしましました。(もつとも定員は6名ですが…)

その中には前回入れず、キヤンセル待ちをしていた方もいらっしゃいました。どんな方が受講生で来て頂けるのか楽しみですが、とにかく仲良く恥をかいでも大丈夫な人間関係でやつて欲しいと思います。また卒業した3期生も卒業生の会、「笑わせたいわ笑学校」に入つていただき笑学生が28名になりました。有り難い会になつています。

1期から3期までの受講生の有志が発表する、第2回発表会が9月2日NH

市村（現佐伯市宇目小野市）で9月15、16日に椿原祭典と旧重岡村（同重岡）で9月22、23日に八四原祭典といふとも大きな御祭があります。その八四原祭典の行事で「御神輿」の後ろを宮司初め総代さん達がついて行くのですが、以前は歩いてついて行つてまでも近道をしたくなる。田んぼのあぜ道を近道していくたらお腹が痛くなつた。傍らに野雪隠（トイレ）があつたのでこれにまたぐと帯が緩くて懐のお弁当の握り飯がチャポン「ああ、こいつ近道をしたな」これがしこみ落ち



話し方教室三期生卒業式

嘶方教室では一体何をやつているのかとよく聞かれます。それは、笑い嘶の作り方や、笑いの構造を皆で考えるのですが、10回では中々そこまではいきません。「嘶は人柄である」という事「仲間を作ろう」ぐらいで終わっているのが現実です。

「芋屋の娘、年取つたね」「ふけたよ」「お坊さんが新聞読んでる」「今朝（袈裟）きて今日（経）読んでるこれが地口落ち

1. 「おい、そんなところで何やつてんだ」「静かにしてくれ。今兄貴に手紙を書いている」「手紙ってお前、字がかけないだろ?」「いいんだよ兄貴だって字が読めないんだから」これが間抜け落ち

2. 「おばあさんが池の中に百円を投げていて。「おばあさん、お賽銭ですか?」「いいえこの看板を見たのよ」看板には「鯉のえさ 百円」と書いていた。これが考え方落ち

3. 「長い道中をする飛脚さん。どうしても近道をしたくなる。田んぼのあぜ道を近道していくたらお腹が痛くなつた。傍らに野雪隠（トイレ）があつたのでこれにまたぐと帯が緩くて懐のお弁当の握り飯がチャポン「ああ、こいつ近道をしたな」これがしこみ落ち

4. いろいろな落ちを説明しながら嘶方を皆さんと楽しんでいます。私が教えると言うより、私の方が勉強させて貰っているのです。

ブログに書けない こじだけの話

いよいよ今年も残すところあと3ヶ月となりました。11月もとても忙しそうなので、すぐ師走となり、そつこうするともうお正月となるでしょう。「どうして人間は年をとると一年が早く過ぎるよう感じるのだろう。」という話になりました。中々結論が出ません。年に慣れてくるので、この公式にする年に365年を取ればそれだけ一年と10歳の時に37日に感じられた一年が50歳になれば一週間程に感じてしまうと言ふ事。なるほどと思いました。私が5年前の参議院選挙に落ちて、来年が来年で大学を卒業しますが、落選かその参議院議員選挙があります。息子が来年で大学を卒業しますが、落選かすっぽり入ります。「また選挙に出ないのですか?」の質問が多くて、皆さん大変でした。来年が過ぎればその質問も無くなるでしょう。息子の大学生活の援助と新しい環境での仕事を振り返ると、この6年間は本当に長かつたと感じています。と言うとこの説も壊れてしまします。どなたか「なんで年を取りに従つて一年が過ぎるのが早く感じるのか」を教えてくれませんか? 因みに私達の息子は来年4月から大分市に帰つてくれるようになりました。神職の免許も取つてくれます。本当に心から感謝です。

お宮の話（その四）

～お札編～



今回は、鷹鳥屋神社の「お札」のお話です。皆さんは鷹鳥屋神社の「お札」を手にされた事があるでしょうか？それはとても心のこもった温かみのある素敵なお札です。神事の際に必要なお札。氏子さんからの依頼により準備するお札。などなど用途は様々です。が：お札のお話をするには、まず「矢野節子さん」をご紹介しなければなりません。730年の歴史を持つ鷹鳥屋神社の現在の宮司は、第37代矢野大和氏。ですがこの方、皆様もご存じの通り。口演、口演の毎日で実は、なかなか神社にじつとしてはいられない。

そこで、矢野大和氏不在の神社を陰になり、日なたになり守っているのが実はこの方。第36代宮司の奥様であり、矢野大和氏の母上である矢野節子さん。御歳78歳。36代が早くに亡くなられたので、かれこれ30年以上神社を守る日々。毎日ご祈祷所の神様へお茶とごはんを差し上げ。日々のご祈祷も欠かしません。神社の雑務は節子さんが全て請け負っている。と言つても過言ではありません。そんな忙しい日々の中。お札を作るのも節子さんの役割。



白衣・袴に身を包み、ご祈祷所にある銀杏の分厚い板の前に座り、精神を統一。「お札に守つて頂かないといけないから、私の雑念がお札に入らないようにならないといけないんやわあ」微笑みながらも眼差しはしんげんそのもの。一つ一つ奉書をお札のサイズに切り、墨を磨り準備が出来たら、ずいぶん年季の入つたお道具達が登場。お札の文言が書かれた版本。節子さんが生まれたての卵を両手で支えるように差し出したのは小さなハン「達。などなど：ちなみに、この版本は「筆の達人」として有名だった35代宮司の渾身の作。35代が筆をとり、版本に写し、それを夜な夜な彫刻刀で彫り進めて作つたもの。「ねえ！きれいな字でしよう！」35代の字は本当にきれいだつたのよ！」節子さんの自慢の一つだ。そし



取材・文 神田明美

て、大事なハンコ達はいずれも100年以上前から鷹鳥屋神社に受け継がれているもののさすがの節子さんにも詳細までは分からぬ代物。そこにただ一つ鷹鳥屋神社のお札を手にした事がある方でも、ご覧になつた事のないハンコがあるハンコ達の中でも一番小さなそのハンコはお札の中に入つてゐる「御神体」となる奉書にのみ押印されるハンコ。「私がお嫁に來た時に「とにかくこれが一番大切なハンコ」と教えられたのよ」と両手の中にある小さなハンコを愛おしそうに見つめる。惚れ惚れする字の書かれた版本に墨を塗り、奉書に写し取り、御神体を包み水引を結び御祈祷を終えてお札は完成する。鷹鳥屋神社のお札を手にされた事がある方も、これから手にするという方も、是非、この歴史と節子さんの想いを記憶の隅に留めておいて頂けるとまた、ちょっと違う「お札」に見えるかも・